

# 新潟・山木戸遺跡

やまきど

1 所在地 新潟市山木戸

2 調査期間 一九九四年(平6)五月～八月

3 発掘機関 新潟市教育委員会

4 調査担当者 小池邦明

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 古墳時代、奈良・平安時代～室町時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡は阿賀野川旧河道の河口近くの砂丘(新砂丘Ⅱ-四列に比定)上に立地し、遺構確認面の標高はマイナス〇・五m前後である。一



(新潟)

九九一年度調査に次ぐ第二次調査として、五九七㎡を調査した。

遺構は、奈良時代の堅穴、住居一棟、平安時代の土坑、中世の井戸六基、溝一条、土坑、柱穴が発見された。奈良時代の遺構・遺物は少ないが、石帯(巡方・鉈尾

各一点)の出土や、九世紀後半の緑釉陶器・灰釉陶器が周辺の遺跡に比べ多いことから、平安時代では港湾に関係した官衙関連遺跡の可能性もある。中世の遺構は、第一次調査でも掘立柱建物三棟、井戸一基などが検出されており、集落跡と考えられる。遺物は白磁・青磁・土師質土器・珠洲焼・常滑焼のほか、箸・漆塗碗・曲物・墨書折敷・下駄・硯・銭貨などが出土している。

木簡(墨書折敷)は一二号井戸から出土した。掘形は二・一m×二・五mの隅丸長方形で、深さ一・三m。井戸枠は一辺九〇cm、深さ六〇cmの方形縦板組みで、中央に水溜めの曲物(径五五cm、高さ五cm)を据える。規模や構造は検出された他の井戸と変わらない。

木簡は井戸枠の縦板と横板の間に挟まれていた。井戸の設置時か修理の際に差し込まれたものであろう。井戸枠の外側下部から笹神窯産の瓷器系陶器片・青磁破片が出土しており、井戸の設置年代は一四世紀代と推定される。

8 木簡の釈文・内容

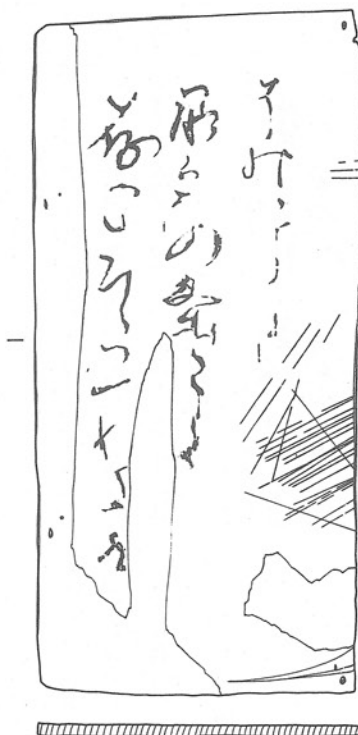
(1) [その□□]

所々の条々□

存こそハ一□た□

269×(128)×5 061

墨書は右半分を欠損する折敷の底部に記されている。左端表面が



剥落しているが、墨書は中央に整えて三行書きされており、この三行で完結するものと考えられる。文意は不明である。なお、釈読及び写真撮影は新潟大学の小林昌二氏による。

(小池邦明)



(新潟)

上郷遺跡は、新潟市の南東約一五kmに位置し、阿賀野川左岸の自然堤防上に営まれた遺跡である。発掘調査は、国道四九号線横雲バイパスの建設に係り、一九九二年から三年間行なった。調査の結果、平安時代中頃の遺構・遺物が主体を占め、遺構は掘立柱建物・土坑・溝・水田・畝状遺構などが検出された。

## 新潟・上郷遺跡

かみこう

- 1 所在地 新潟県中蒲原郡横越村字上郷
- 2 調査期間 一九九三年(平5) 四月～十一月
- 3 発掘機関 新潟県教育委員会・財新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 4 調査担当者 赤羽正春
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代前期・平安時代中頃
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要